

## トピック — おせち料理の定番野菜（さといも、ごぼう、れんこん）の消費動向 —

お正月のおせち料理には、小芋が多く出来ることから子孫繁栄を願う「さといも」、地中にしつかり根ざすことから生活の安定を願う「ごぼう」、穴が多く開くことから先が見通せることを願う「れんこん」と、いわゆる縁起物の野菜が欠かせず、12月はこれら品目の消費が大きく伸びる時期である。

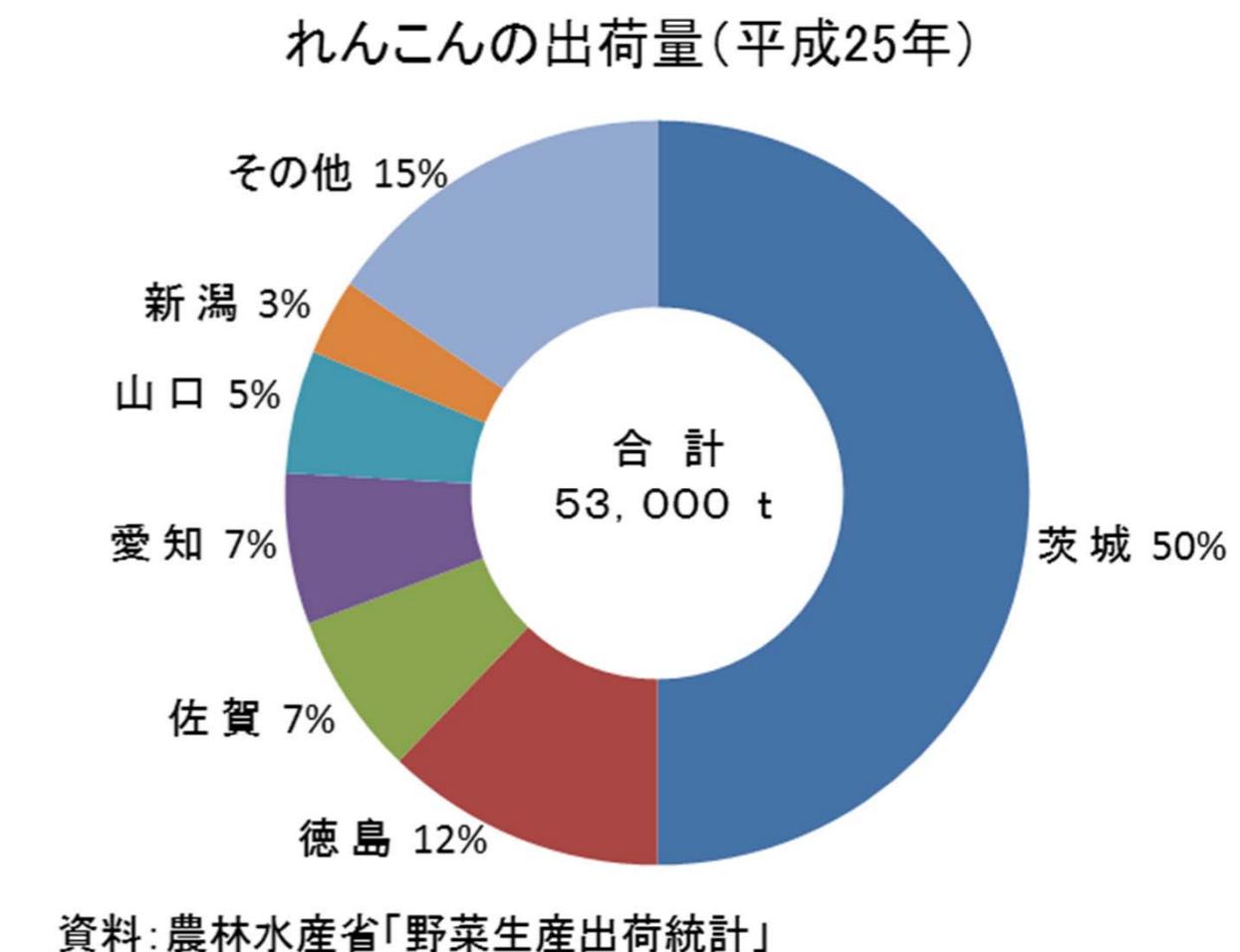
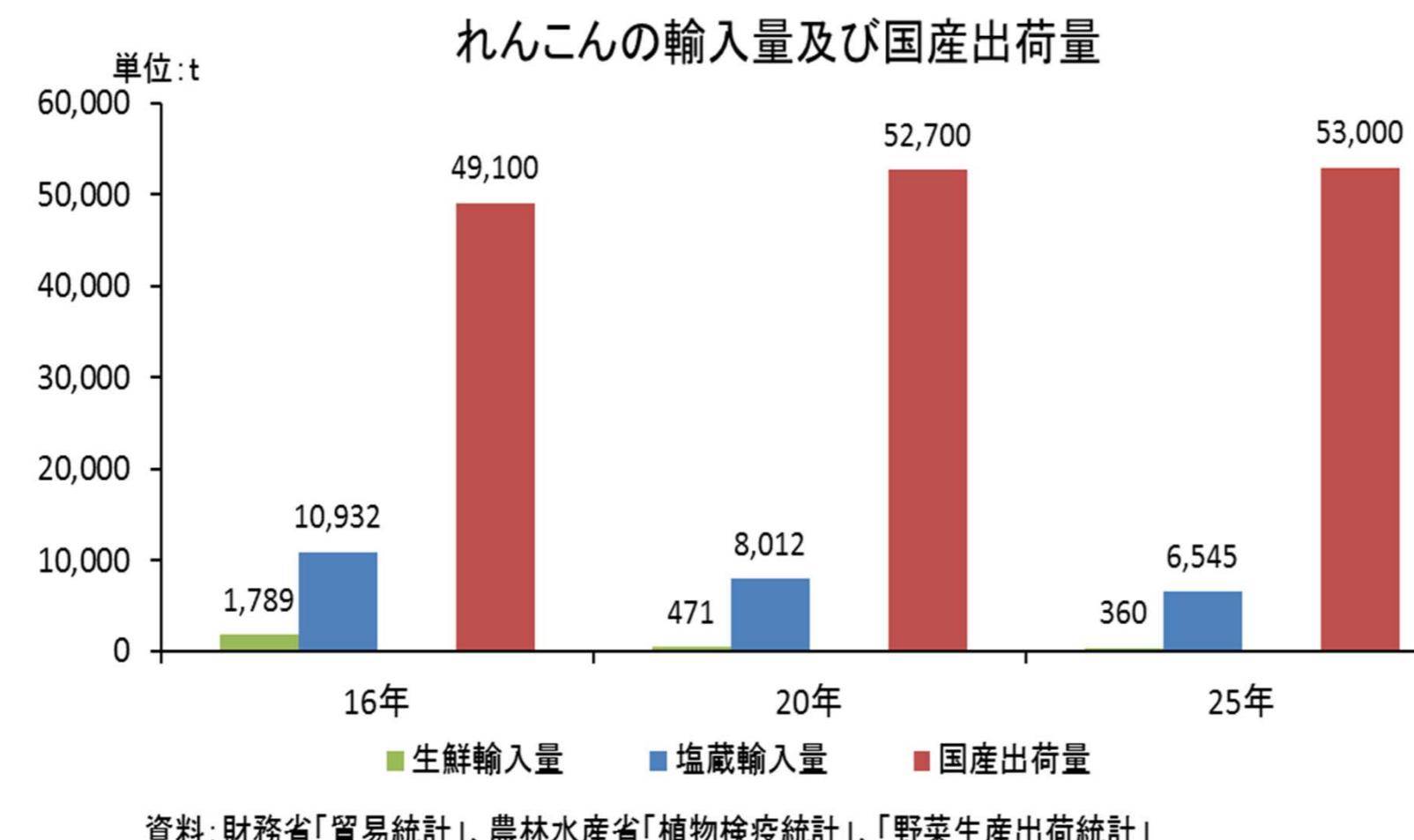
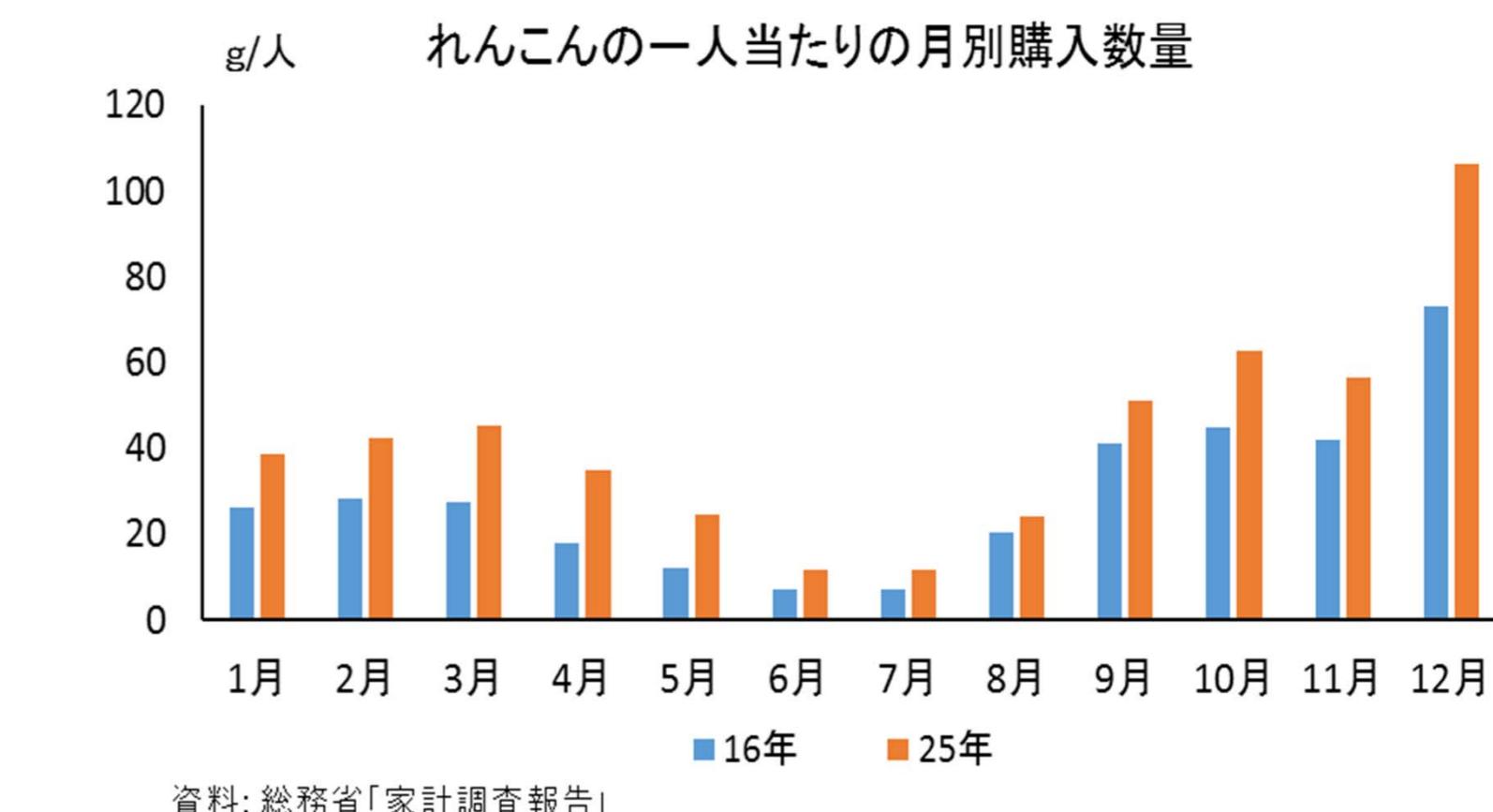
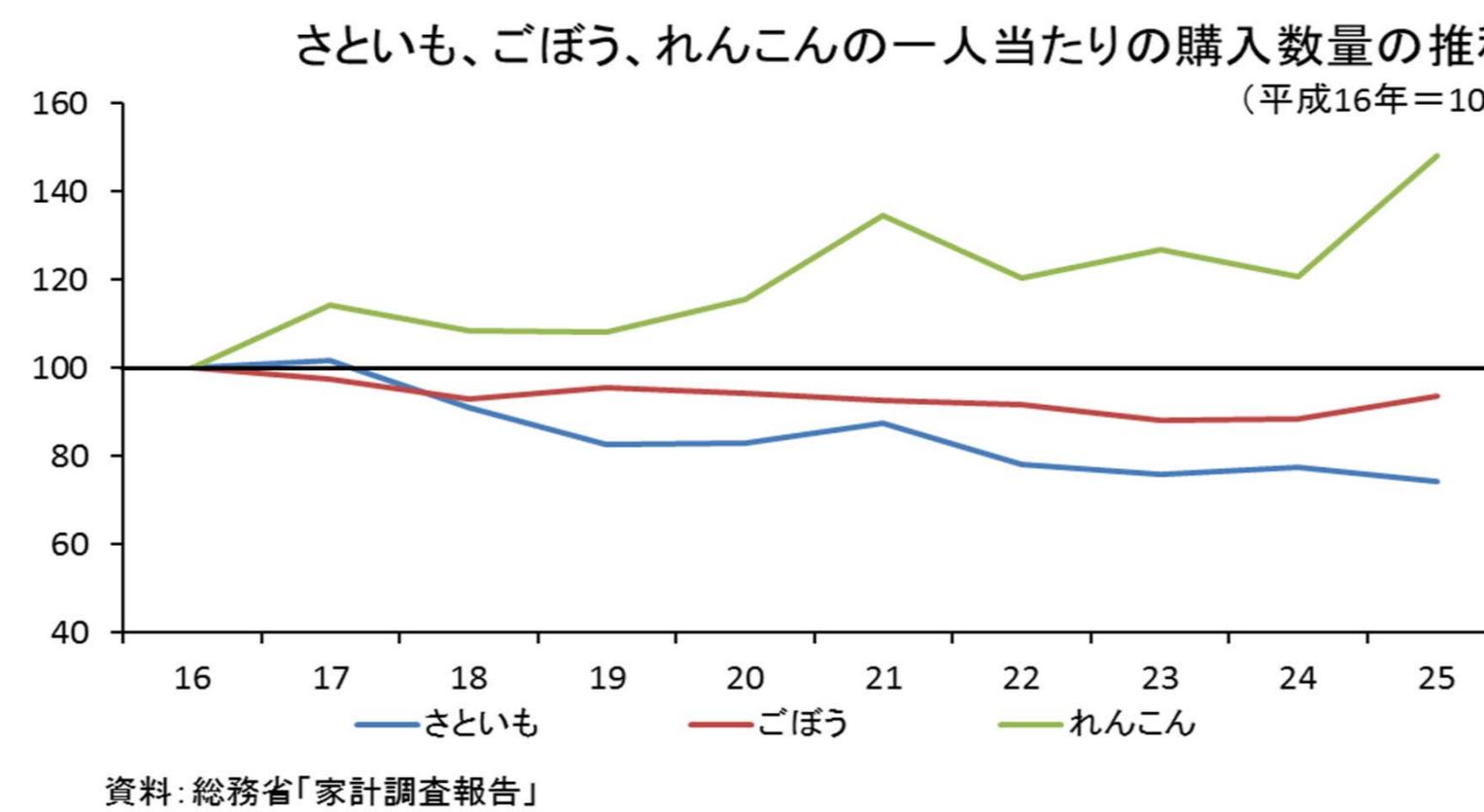
さといも、ごぼう、れんこんの一人当たりの家計購入量（平成16年=100）の推移をみると、平成25年には、さといもが▲26%、ごぼうが▲6%減少する一方、れんこんは+48%と大幅に増加している（さといも684g、ごぼう668g、れんこん511g）。同様に月別の動きを平成16年と25年で比較すると、特に12月の伸びが大きくなっている。

れんこんは、ビタミンCや豊富な食物繊維、胃粘膜を保護するルチンやポリフェノールの抗アレルギー作用などが注目されており、最近では肉料理など家庭向けの新しいレシピも普及している。さらに外国産に比べて良食味である国産品に対する加工業務用ニーズの高さなども加わり、多くの伝統的な野菜の消費が減少する中にあっても需要が堅調に推移しているとみられる。

堅調な需要に呼応し、国産のれんこん出荷量は最近ではほぼ横ばいで推移する一方、輸入（生鮮品+塩蔵品）は減少傾向にある。

これら3品目の今年の需給動向は、天候不順で一時高値となったものもあるが、主産地の埼玉県産（さといも）、青森産（ごぼう）、茨城県産及び徳島県産（れんこん）の作柄はおおむね良好であり、卸売価格はおおむね安定的に推移すると見込まれている。

ユネスコの世界無形文化遺産にも登録された「和食」の代表格とも言えるおせち料理の中でこれらの野菜が一層引き立つことが期待される。



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html)に掲載しています。